

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)／佐藤
勝幸

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

○授業内容 知識・理解の深化と授業実践できる力量を育成するために、具体的な発問や例示を用いながら、学生が自覚し、確かな手応えを実感できる授業内容を計画・実践する。
○授業方法 できるだけ学生参加型の授業を展開する。受け身的な授業ではなく発言・議論を誘導できる授業方法を構想し、実践する。
○成績評価 成績基準の明確化と学生に課す課題やレポートの目的・意義の説明に努め、学生が省察できる評価を行い、必要ならコメントを記した課題やレポートの再提出を要求する。

2. 点検・評価

○講義や演習において、できる限り具体的な例を挙げたり、学生に発言させることにより講義内容を理解できるよう努め、学習意欲を高める努力をした。
○初等中等教科教育実践Ⅱにおいて、指導案の作成後発表させ、受講生全員で討論するよう授業計画し、実践した。
○成績評価や基準を学生に伝え、レポートにはコメントを記し、理解と知識の定着をはかるとともに、自己省察できるように心がけた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 前年度に引き続き、教育実践力を養うため、模擬授業を取り入れた授業を行う。
- 特に、理科教育の特徴、小・中・高校での単元構成や今求められている教材についてわかりやすく指導する。
- 基本的な知識や実験・観察の技能が身につくような指導を試みる。

2. 点検・評価

- 初等理科教育論では、例年のように模擬授業を取り入れ行った。学生の負担はあるが、実践を通して教育の原点を理解できるよう努めている。
- 理科教育関連の授業では、歴史的な側面、国内外の様々な授業方法を解説し、特に授業方法(学習方法)や教材について幅広い理解が持てるよう努めた。
- 実験実習では、基本的な技能の定着と実験の原理の理解に注意しながら指導した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- アンケート調査に基づく成果を研究論文としてまとめるとともに、学会等でその他の研究成果の発表に努める。
- 特に、生物学では、空気中を浮遊する微小生物に関する研究を進めるとともに、発展途上国でも利用可能な高校生物の教材開発に努める。
- 特別経費(プロジェクト分)「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」を研究開発委員会委員長として推進に努める。

2. 点検・評価

- 中学校理科教員を対象に、教科書に関するアンケート調査を行った。その成果は教員研修留学生の報告書としてまとめている。
- 空中に浮遊する微小生物の基礎的研究を進め、学校現場の先生が利用できるような解説を作成した。
- 特別経費(プロジェクト分)「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」を研究開発委員会委員長として推進に努めた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- 人権教育推進委員、実地教育専門部会委員として本学の運営に貢献する。
- 長期履修学生支援センター所長として長期履修学生の資質向上に努める。
- 学部3年次のクラス担当教員として学生の教育的支援に努める。
- 修士課程教員養成カリキュラム研究開発委員として修士課程学生の資質向上に努める。
- 特別経費(プロジェクト)「高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実」の研究推進委員として貢献する。
- プロジェクト研究企画・推進室長としてその職務を全うするよう努める。

2. 点検・評価

- 人権教育推進委員、実地教育専門部会委員として本学の運営に貢献するよう努めた。
- 長期履修学生支援センター所長として長期履修学生の資質向上に努めた。
- 学部3年次のクラス担当教員として学生の教育的支援に努めた。
- 修士課程教員養成カリキュラム研究開発委員として修士課程学生の資質向上に努めた。
- 特別経費(プロジェクト)「高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実」の研究推進委員として貢献するよう努めた。
- プロジェクト研究企画・推進室長としてその職務を全うするよう努めた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 附属学校園における研究会での協力・援助、附属学校園の教員との理科教育分野での意見交換や連携に努める。
- 教育支援アドバイザーなどを通じて地域・社会との連携を積極的に行い、社会貢献に努める。
- 本年度も、機会ある毎に国際協力を努める。

2. 点検・評価

- 附属中学校研究大会で助言指導を行った。
- 徳島県中学校理科教育研究大会にて助言指導を行った。
- ミャンマーからの教員研修留学生の指導を行い、報告書の作成を援助した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

The 8th East Asia International Symposium on Teacher Education (中国、長春: 東北師範大学)にて本学の教員養成モデルカリキュラムに関する取り組みを発表した。